

5/14 木曜

沖縄はあが、一〇一二年五月十五日。本土復帰から55年を迎えた。沖縄支配の体験を通じ、県民は復帰に際し、日本国憲法の下での基本的人権の保障と「基地のない平和な島」の実現を切望しました。しかし、復帰から半世紀が過ぎた今も、沖縄はその願いがかなわぬ離れた状況にあります。

今も続く人権じゅうりん

日本共産党の赤旗政策議員は4月27日の衆院憲法審査会で、「沖縄じゅうりん」について発言しました。翌28日が、沖縄を日本から切り離し米国の施政権下に置いたまま決着し、児童の18人が死」「33年—」の保障を願望していた」と、次のように述べてきました。「那覇市で信託を無視した米軍アラックが中学生の男子生徒をはじめとする100人以上が殺害され、運転していた米公務車、走行中のつかなか車、兵は軍法会議で無罪」「35年—の悲劇等を経験して、県民は…周年を迎えたのです。47年に沖縄で生まれた赤旗れんは発言の中

主張

沖縄本土復帰51年

で、自分が小学校に入學したから大学生にならぬまでの間で起きた米軍の事件・事故を振り返り、「軍政下で沖縄市民の命は虫の心地に扱われた」と強調しました。

△55年—6歳の少女が米兵に拉致・暴行された上、惨殺される△59年—石川市（現・うるま市）の

「平和な島」実現への道開けり

宮森小学校に米軍ジェット機が墜落し、「児童の18人が死」「33年—」の保障を願望していた」と、次のように述べてきました。「那覇市で信託を無視した米軍アラックが中学生の男子生徒をはじめとする100人以上が殺害され、運転していた米公務車、走行中のつかなか車、兵は軍法会議で無罪」「35年—の悲劇等を経験して、県民は…周年を迎えたのです。47年に沖縄で生まれた赤旗れんは発言の中

私が落丁し、小学校生の女子

復帰を強く望んでおつます」

「再び戦場にさせない」

沖縄返還協定は、米軍支配下で強制的に拡張された広大な基地を存続させました。そのため今も全国

の米軍専用基地面積の7割が県内に組まれ、「沖縄が再び戦場になれる」危険が高まりつつあります。沖縄県の玉城トニー知事は2004年の沖縄国際大学へ

のくつ撲滅事故、16

年の米軍属による女性暴行・殺害事件

「再び戦場にさせない」

重大的なのは、岸田文雄政権が決定した安保の文書に基づき「敵基地攻撃」が可能な「サイル配備な

地攻撃」が可能な「サイル配備などが組まれ、「沖縄が再び戦場になれる」危険が高まりつつあります。沖縄県の玉城トニー知事は2004年の沖縄国際大学へ

のくつ撲滅事故、16年の米軍属による女性暴行・殺害事件

が復帰を願った心情」について

同年の沖縄市海岸へ

のオスマントル事件など、被害は後を絶ちません。

ついで、日本国政府は那覇市辺野古の米軍新基地建設

の緊張緩和と信頼醸成」を政府に求めました。県議会もこの同

趣圖の意見書を可決しました。

そうした通り、県民の願いに従来通りの基地の島としてではなくて県民の人権はじゅうりんされ続けてくる」と語りました。

沖縄じゅうりんあるのです。